

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	キッズサポートこころ					公表日	令和8年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		十分な広さだと思う。	必要に応じてキッズハウスやパーティションで個室を提供するが防音効果はない。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		他事業所に比べると多い方だと思う。	職員数は基準より多いと思うがより良く支援の為にパート職員の採用を検討。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		見て分かる位置に絵本や療育玩具を配置。わくわく感を大切にしている。	細かい療育玩具は手が届かない場所に保管。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	木の香りが良い。	無垢床の汚れが目立ってきた。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		午睡や痲痺時に静養室を利用。	安眠の為、静養室(床)に置き畳を検討中。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	あまり意識したことがない。	開所2年目で職員の入れ替わりもあり業務改善を一緒に行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	行っている。	lineで情報共有しているが職員間で意識の差が大きい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	lineで情報共有しているが、職員がシフト制でもあり意識の差が大きい。	Instagramで日記代わりに日常を記録しているが支援者の意識の差が大きい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	第三者評価を行っていない。	第三者評価を行っていない。必要に応じて以来する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	代表者が小城多久地区の研修会に定期的に参加。	前年度に比べ参加の回数が減った。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	毎月lineにて予定表を配布。Instagramでもお知らせしている。	毎月Instagramでお知らせしているが変更時はアプリ(デイロボ)に記載している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	1	排泄介助の児童が多く職員間の連携が大切。	補助便座に尿が飛び散ることがある。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	日常の会話、連絡ノート、送迎時の連絡等、職員全員でグループlineで共有を図っている。	シフト制の為グループlineで連絡の強化、確認。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	生きるチカラ、セロトニンを増やす支援。	排泄介助の徹底。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	症例検討会に参加した。	強度行動障害の理解。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	専門用語ではなく誰でも分かりやすい言葉で記載している。地域の就労施設、鳥栖市のグループホームの見学会に参加した。	関係機関との連携。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		Instagram等で地域のイベントを調べたり、職員の得意分野(お菓子作り、読み聞かせ、制作等)分担している。	職員の得意分野以外も担当できるように研修の強化。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		様々な療育玩具、療育遊具を提供している。	キャラクターグッズを使い興味関心を高める。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別活動が多い。散歩しながら地域の公園遊びを提供。	散歩時は多動児用リュック（派手）を使用。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		前日の振り返り、lineでの共有、記録、送迎等都度打ち合わせしている。	送迎地域は担当制。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		グループlineで共有。Instagramで日常を投稿。髪型、服装、常に確認している。	てんかん発作は必ず動画で記録し保護者に共有。座薬等の医療行為は診療情報提供書の支持に従う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		グループlineで共有。Instagramで日常を投稿。髪型、服装、常に確認している。アプリ（デイロボ）で記録、写真添付。	排泄介助の共有。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		相談支援専門員等とも連携しモニタリングを行う。	セルフプラン児童には必要に応じて相談支援専門員の紹介。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理責任者が参加。	キッズサポートこころでの担当者会議では児童指導員等も参加。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	関係機関と連携を図る。	こども園迎え時、午睡等の様子を確認。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	関係機関と連携を図る。	相談支援専門員等を通じて連携。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	7	必要に応じて連携している。	相談支援専門員等を通じて連携。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		8	連携の機会なし。	必要に応じて連携を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		8	活動の機会なし。	必要に応じて連携を図る。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		職員間で常に連携している。	保護者lineや家族lineにて写真や動画の提供。写真の枚数が多いため都度確認。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		COCOカフェ（ママカフェ）定期開催。	保護者の友人づくり、悩みごとの共有の為定期開催が必要。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		変更時にお知らせしている。	lineにて情報共有。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		lineやアプリ（デイロボ）で共有。	必要に応じて電話連絡。（体調不良）	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		同意をいただいている。	書面にて同意。今後アプリに移行。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		電話・line・施設面談等保護者の希望に寄り添う。	必要に応じて関係機関と連携。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		COCOカフェ（ママカフェ）定期開催。9月に親子ふれあいバス旅行開催。	バス旅行開催時期の再検討。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		lineにて対応。夜間でもlineにて対応。	lineで対応し、関係機関へ情報共有。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		ほぼ毎日Instagramで情報共有。	長く発信できる工夫が必要。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		十分留意している。	lineにて共有。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		ほぼ毎日Instagramで情報共有。	Instagramで顔出し同意児童以外はモザイク処理。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	希望者には見学の機会を設けている。	地域の自治会に登録。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	定期的に訓練を行う。	訓練の様子はInstagramで発信。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	定期的に訓練を行う。	必要に応じて訓練の回数を増やす。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		診療情報提供書等の支持に従う。	発作かな？と思った場合はすべて動画記録の徹底。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		診療情報提供書等の支持に従う。	定期的に食物アレルギーの確認。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		送迎車乗車時、服装確認の為写真撮影を行う。ミニノートに降車確認を記録。	ミニノートで降車確認の徹底。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		契約時に説明を行う。	定期的にlineで確認。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		多動児等の行動観察。行動の分析を行う。	書面やグループlineで情報共有。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		ランチミーティング等で虐待（何が身体拘束に当たるか）都度確認している。	必要に応じて関係機関と情報共有を行う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		ヘッドギアも身体拘束となる為、個別支援計画、利用時の記録に必ず記載する。	玄関の施錠。	